

平成 24年度 山口県立徳山高等学校(本校・全日制) 学校評価書 校長(浅原 司)

1 学校教育目標	
(1) 勢いと動きのある学校づくり	①学年、分掌、事務室等との連携強化による組織力の一層の向上 ②現役合格率の向上と部活動・学校行事等の一層の充実(→文武両道) ③SSHの組織的協力体制による推進 ※SSHを活用した全校生徒の人間力アップ ④積極的な情報の発信(→学校HPの充実)
(2) 授業が自慢の学校づくり	①わかる授業及び興味・関心を高める授業の展開 ②授業評価に基づく授業の改善・充実
(3) 生徒が自慢の学校づくり	①文武両道を継承し、品格と教養のある生徒の育成 ②心の教育の進展と生徒相互の信頼関係の確立
中・長期目標 … 伝統を継承し、相互の信頼感を深め、不断の努力によって学力の充実した心身ともにたくましい生徒を育成	

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
①	平成22年度から5年間、文部科学省からSSHの指定を受け、研究開発課題に沿った研究活動を推進している。本年度は指定3年次となり、全学年で取り組む年度となった。SSHの学校設定科目、高大連携や企業連携、海外研修などはほぼ計画どおり実施した。全校体制で取り組んできたが、推進組織については、さらに検討を重ねていく必要がある。
②	昨年度は耐震化工事が行われ、運動会や徳高祭等の学校行事は、安全面に不安があったが、十分な配慮により、生徒・保護者ともに安心して実施できた。そのため、内容に関する満足度が高かった。本年度は耐震化工事が全て終了しているため、安全面で制限を受けることなく実施することが可能である。
③	学習指導については、各学年・教科で計画された自主ゼミや遅進者指導、小テストや週末課題による指導が行われた他、進路指導課で計画された課外授業などが実施され、学力向上の取組が進められた。また、23年度から55分6限授業を実施し、週あたり33単位時間の授業時数を確保しており、高い進学実績がその成果としてあらわれている。
④	生徒指導については、登校指導や髪型服装指導を実施しながら、重点の4本柱である「遅刻防止」「掃除徹底」「挨拶励行」「服装清整」の指導に力を入れた。制服の着用状況、携帯電話の使用マナーについては、今後も継続的な指導が必要である。
⑤	進路指導については、模試や課外の計画的な実施、進路だよりや進路講演会による進路意識の涵養、進路指導課・学年の連携による進路検討会の実施とそれを活用したきめ細かな個別指導などによって、生徒一人ひとりの進路希望実現に向けた取組を進めることができています。
⑥	部活動は今年度も生徒の参加率が高く、顧問の熱心な指導もあって、意欲的な活動が見られた。全国大会、中国大会に出場した部もあり、文武両道の伝統が継承されている。生徒会主催のボランティア活動も実施されており、こうした活動は生徒の人格形成や社会性向上の点からも重要な機能を果たしている。
⑦	保護者・生徒による学校評価アンケートの結果によると、学力向上に積極的に取り組んでおり、学校行事や部活動が充実しているといった点で評価が高い一方、シラバスの活用、学校の規則を守る意識などが不足しているという意見が見られる。
⑧	昨年度から、緊急メール配信を開始した。台風や豪雨による災害等が発生した場合の対応を早急に周知することができた。生徒や保護者の反応もよいため、今後とも早期送信を心掛ける必要がある。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
①	周南地域の中核校として、学校行事やSSHの取組など特色ある教育活動を充実させるとともに、生徒の進路希望を実現させることのできる、保護者や地域から信頼される学校づくりを推進する。
②	新学習指導要領への対応やSSHに係る学校設定科目の位置付け等を検討し、新しい特色ある教育課程を編成する。
③	国際性の育成や問題解決力の伸長、望ましい自然観や職業観の形成など、本校SSHの特色ある研究課題の解明に向けた研究開発活動を全校体制で推進するための校内組織づくりを行う。
④	学校の教育活動に関する情報を学校新聞やクリック徳高等を通じて、家庭・地域に向けて発信しているが、ホームページを充実させることで、情報発信力をさらに高めていく。
⑤	授業アンケートを活用した授業改善や学年・教科等の連携による個別指導、課外授業の充実等によって学力向上を図る。
⑥	服装の清整、掃除の徹底、携帯電話の使用等を日常の学校生活の中できちんと指導し、基本的な生活習慣の定着を図ると同時に、校則やきまりを守る意識を高めていく。
⑦	緊急メール配信の早期発信を継続し、安心安全の学校づくりを心掛ける。また、防災教育を強化し、緊急時の対応についての意識づけを定着させる教育を行っていく。

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
総務課	○学校行事等の円滑な運営の推進	各式典・全校集会・授業公開などの運営について、全教職員、関係分掌との協力・連携による協力体制を確立する。また、行事等の実施時期、方法等の見直しを検討する。	4:全教職員の協力の下に円滑に実施された。 3:教職員の協力の下順調に行われた。 2:改善すべき点が多くあった。 1:協力が得られず、円滑に実施されなかった。	3	行事予定表に沿って、本年度の行事は順調に運営されている。それぞれの行事の実施時期や内容についての具体的な検討が行事等検討委員会で話し合われている。	年間を通して学校行事が、円滑に実施されている。学校説明会には昨年度に増して参加者が増えているとのこと。本校に関心を持つ生徒が多いことは好ましいことで、先生方の努力の成果である。公開授業の拡大や二大行事の積極的開催など、開かれた学校づくりが進められていることがわかる。また、より迅速な情報発信を心掛けてほしい。特にホームページに次年度の予定など早めに掲載していただくことで保護者やPTA役員が予定を立てやすいので、ホームページのリニューアルの機会にあわせてぜひお願いしたい。	B
	○学校・家庭・地域間のさらなる連携強化	本校と分校のさらなる連携強化を進める。PTA総会、常任委員会を通じ保護者の意見を集約し、PTA活動の活性化をさらに進める。	4:十分な連携強化、ができた。 3:連携強化ができた。 2:連携強化が不十分であった。 1:連携強化ができなかった。	3	学校要覧や学校説明資料には分校の原稿を掲載し、徳山高校というまとまりを意識している。PTA総会後のアンケート結果では保護者からの細かい要望や質問が減少し、学校に対して好意的な意見が多くなっている。		
総務課	○積極的な情報発信	「クリック徳高」「学校新聞」「PTAだより」「徳高便覧」を活用し効果的な情報発信を行う。「徳高便覧」の充実、ホームページのリニューアルを検討する。	4:迅速で積極的な情報発信やリニューアルが行われた。 3:十分な情報発信やリニューアルができた。 2:情報発信が十分でなかった。 1:情報発信ができなかった。	3	学校説明会後のアンケートでは『クリック徳高』の認知度が低かったことから、更新時に中学校にメッセージを付けて送信することにした。ホームページが情報企画課によりリニューアルされたことを受けて、各分掌やPTAとも協力して定期的に積極的な情報発信行っていきたい。		
	○生徒個々の進路の実現を可能にする教育課程の実施	・センター試験に対応した教育課程の研究、検討を行い、改訂する。	4:完全対応の教育課程が改訂できた。 3:ほぼ完全対応の教育課程ができた。 2:やや課題が残る教育課程となった。 1:各教科で多くの課題が残った。	4	進路課の協力を得て職員研修を行い、3年文系で理科の探求の学校設定科目を設置するなど、改訂した。また、3年理系では、課題研究を選択科目に追加した。重点目標は達成できた。	生徒の進路実現を可能にする新教育課程を編成をされたことは評価できる。今後完全移行まで新学習指導要領の実施に関わる教育課程の研究、	

教務課	○教務内規の見直し	・時代の変化に対応すべく教務内規の改訂を協議し、諮る。	4:十分に協議でき、共通理解が形成された。 3:十分ではないが協議を行い、ほぼ共通理解が形成された。 2:協議が不十分で、共通理解を形成できなかった。 1:改定案の作成にいたらず、協議できなかった。	4	教務内規の見直しによって、履修と修得の定義を明確にするなど、改訂を行った。協議の中で、共通理解を形成するとともに、指導要録の記入、出席簿の管理など多くの課題を解消できた。	A
	○総合学習(キャリア教育)の充実	・主体的に進路を決定する態度・能力の育成を果たす年間計画の作成。在学期間を見通した、指導計画の作成と実施。	4:学年・分掌間の協議を行い、指導計画を作成・実施し、今後の課題が明確になった。 3:学年・分掌間の協議を行い、指導計画を作成・実施したが、今後の課題が明確でない。 2:学年・分掌間の協議を行い、指導計画を作成したが、十分実施できなかった。 1:学年・分掌間の協議が不十分で、指導計画の作成に至らなかった。	3	学年・分掌間の協議を行い、役割分担の明確化、指導計画の作成を行った。特に、1学年で実施している魁講座をより効果的にするために、実施時期を変更するとともに、事前・事後指導の充実の必要性を訴えた。具体的な使用教材の選定、キャリア教育の充実は、今後の継続検討とした。	
生徒課	○規範意識の確立	・頭髪服装の一斉指導(年間7回実施予定)や登校指導(4月～2月の火・金曜日を中心に全教員で実施予定)に加えて、服装指導票と反省文による指導を活かす。さらに、街頭指導等を分校とも連携しつつ日常的に推進することによって、規律ある高校生活の中で生徒が自ら切磋琢磨し高め合う環境をつくる。	4:掲げた目標を十分達成できた。 3:掲げた目標をほぼ達成できた。 2:努力したが課題が多く残っている。 1:目標達成に至っていない。	3	・服装頭髪の一斉指導は既に5回実施し、その後の再指導を粘り強くおこなっている。また、平素の指導にも力を注ぎ、火曜日と金曜日の全教員による校門指導を継続しつつ、毎朝の校門指導も複数で行えるようになった。指導の日常化は着実に進んでいる。しかし、あいさつやマナーに関して、まだ十分ではない。	A
	○学校行事の成功	・与えられた環境の中で、生徒自身が工夫し、生徒会執行部や各種委員会等を中心に主体的に企画・運営をする本校学校行事を通じて、生徒一人ひとりが積極的に関わりを持ち、連帯感・達成感・自己有用感を高めることができるよう指導し援助する。	4:行事の成功で生徒全員が成長した。 3:多数の生徒が満足できる行事だった。 2:生徒の自主活動・意欲が低調だった。 1:行事の見直しが必要である。	3	生徒の動きがやや鈍く、教員が前面に出て支援・指導をする場面がやや多くなった。生徒自身が考え、企画運営する本校ならではの主体的な活動によって、生徒の自信を持たせ、自己有用感を高めさせる点では課題が残った。しかし、行事自体の達成状況は、例年と変わらず完遂することができた。	
	○部活動	・生徒の部活動加入を奨励し、学年を超えた生徒相互の自主的な活動を通じて、学校のさまざまな活動に積極的に取り組む生徒を育成する。このような方策を根底で支えるものが生徒と教師の適切な関係の内に存するので、生徒との関わり全体を通して挨拶その他のマナーを指導する。	4:部活動や実行委員会の加入率が9割を超えた。 3:部活動や実行委員会の加入率が8割を超えた。 2:部活動や実行委員会の加入率が7割を超えた。 1:部活動や実行委員会の加入率が7割に満たなかった。	3	5月当初の加入部員は約90%であったが、その後、2年の退部生徒もあり一部の部を除き活動は低下傾向である。しかし、現在生徒会その他の組織を活用して、ソフトボール男子の部昇格や、大会参加人数枠の拡大など、活動の振興に取り組んでいる最中である。	
進路指導課	○きめ細やかな進路指導体制の確立	* 面談週間を年間2回設定すること等により、生徒一人ひとりの実情に応じた進路指導を行う。	4:生徒の進路選択に大きく役立った。 3:面談に前向きな生徒が多かった。 2:生徒の関心はあまり高くなかった。 1:面談はほとんど役に立たなかった。	3	年間2回の面談週間は予定通り実施し、生徒の実情に応じた進路指導を行うことができた。	B
	○目標達成のための学力養成と進路意識の涵養	* 授業を中心としながら模擬試験、課外を効果的に実施して受験に必要な学力を養成する。 * 「進路だより」の定期発行やLHR、進路講演会、大学のオープンキャンパス参加、大学の模擬授業等で、生徒の進路意識の涵養を図る。	4:情報提供が保護者に十分伝わった。 3:ほぼ生徒・保護者に伝わり役立った。 2:生徒・保護者とも関心が低かった。 1:ほとんど印象に残っていなかった。	3	模擬試験、課外は年間計画通り実施し、生徒の取り組みも良好であった。「進路だより」では各学年ごとに独自の内容で時期に応じた進路情報を提供することができた。また、進路講演会や大学のオープンキャンパス参加、大学の模擬授業等を通じて、生徒の進路に対する意識を高め、時期に応じた進路指導を行うことができた。	
	○各学年の重点目標	* 第1学年ー学習オリエンテーションを実施するなど、『予習・授業・復習』サイクルによる学習習慣の定着を図る。 * 第2学年ー学習計画表作成・受験アタック課外の実施等により早期受験態勢作りを促す。 * 第3学年ー学習計画表作成・センター試験対策講座の実施等により、受験学力の養成と行事からの切り替え指導を効果的に行う。	4:生徒の家庭学習習慣が定着した。 3:生徒の予復習時間が増加した。 2:指導の効果が顕著に見えなかった。 1:指導が生徒の負担になった。 4:生徒の受験取組が十分できた。 3:真剣に取り組む、学力が向上した。 2:取り組んだがあまり効果がなかった。 1:生徒の取り組みが低調であった。 4:取り組みにより学力が著しく向上した。 3:真剣に取り組む多くの生徒が伸びた。 2:取り組みの成果が十分現れなかった。 1:受験体制への切り替えが遅れた。	3 3 3	「学習オリエンテーション」等の4月当初の取組により生徒は「高校」の学習によりスムーズに入った。また、週末課題の提出や学習計画表の作成を通じて、計画的な学習をするよう指導した。 学習計画表を作成し計画的な学習をするよう指導するとともに、進路講演会を実施して、行事から気持ちを切り替えるよう促した。また、12月に2年生全員を対象に三者懇談会を実施し、早期に進路目標を持たせるよう指導した。 学習計画表を作成し計画的な学習をするよう指導するとともに、学年集会やLHR等で進路に関する全体指導を実施した。文化祭の直後にはセンター試験対策講座や全員受験模試を実施し、同時期に面談週間を実施した。また進路課外を実施し、断続的に様々な取り組みを行うことで生徒へ気持ちの切り替えや意識付けを図った。	
	○人権に配慮した指導の充実	* 教職員の人権意識を高めるための校内研修を充実させ、地域・保護者から信頼されるようつとめる。	4:取り組みにより意識が著しく向上した。 3:真剣に取り組む多くの生徒意識が変わった。 2:取り組みの成果が十分現れなかった。	3	全校生徒対象の人権講話を実施し、事前・事後指導にも配慮した。いじめが社会問題となる中、本校でも積極的な調査を実施している。	
教育相談課	○人権に配慮した指導の充実	* 教職員の人権意識を高めるための校内研修を充実させ、地域・保護者から信頼されるようつとめる。	4:取り組みにより意識が著しく向上した。 3:真剣に取り組む多くの生徒意識が変わった。 2:取り組みの成果が十分現れなかった。	3	全校生徒対象の人権講話を実施し、事前・事後指導にも配慮した。いじめが社会問題となる中、本校でも積極的な調査を実施している。	※次頁に記載

教育相談課	○早期対応による学校不適応の未然防止	* 生徒の人権意識を育てるために日常生活全般で、人権に配慮し教育活動が行えるよう啓発する。	4: 取り組みにより意識が著しく向上した。 3: 真剣に取り組み生徒の意識かなり変わった。 2: 取り組みの成果が十分現れなかった。 1: 意識の切り替えが遅れた。	3	学校全体が「進学体制」で動いており、特別活動や日常の授業での取り組みはやや後回しになる傾向がある。一定の取り組みはできているので、教職員ひとりひとりがさらに自覚を喚起する仕掛けを心がけていく。	支援の必要な生徒に対して学校全体でしっかりと支援をする体制ができていると詳しく説明いただき安心した。 生徒に関する情報を関係者が共有し、早期に対応することは重要である。不登校等の未然防止のためにも、早期の対応と配慮が必要であり、学校として真摯に取り組んでいるとのことは評価したい。 多様化する生徒に対する校内の支援体制の構築のためにも、教職員研修の充実を図り、適切な支援のあり方を共通理解しながら対応していただきたい。 人権教育では、外部講師を招いて実施した全校生徒を対象とする講演会が今年度も好評であったとのこと。今後も生徒の人権意識の高揚に向けた取組を推進していただきたい。	A
		* 学級担任や学年会と積極的に連携をはかり、学校不適応傾向のある生徒を早期に把握し、適切な対応ができるようつとめる。	4: 取り組みにより学力が著しく向上した。 3: 真剣に取り組み多くの生徒が伸びた。 2: 取り組みの成果が十分現れなかった。 1: 受験体制への切り替えが遅れた。	3	年2回の「生活意識調査」を6月・11月に実施しており、生徒からの訴えに対して即応できるように配慮している。本年度は、「丁寧な事後指導」を心がけ成果を上げている。		
	○教育相談体制の充実	* 「教育相談だより」を定期的に発行し、生徒・保護者への情報提供を行う。	4: 取り組みにより意識が著しく向上した。 3: 真剣に取り組み多くの生徒・教職員の意識が向上した。 2: 取り組みの成果が十分現れなかった。 1: 教育相談への意識の切り替えが遅れた。	3	教職員対象の研修を2度実施した。5月・8月に外部講師による講話を聴き意識を高めることができた。今後は「直面する生徒」の事例研究をより充実させたい。		
		* スクールカウンセラーと連携し、生徒・教職員・保護者に対する啓発活動をいっそう充実させる。	4: 取り組みにより意識が著しく向上した。 3: 真剣に取り組み多くの生徒・教職員の意識が向上した。 2: 取り組みの成果が十分現れなかった。 1: 教育相談への意識の切り替えが遅れた。	4	・定例の「教育相談課会議」を2月末までに28回開催し、情報の共有を図っており、かなりの成果を上げた。 また、「教育相談だより」を第4号まで発行して生徒保護者への啓発を図っている。 ・毎回スクールカウンセラーと教職員の連絡会を開催し、成果がみられた。		
	○特別な支援を必要とする生徒への対応の充実	* 特別な支援を必要とする生徒に対する、十分な支援計画を作成する。	4: 取り組みにより特別支援への理解が著しく向上した。 3: 真剣に取り組み多くの生徒・教職員の意識が向上した。 2: 取り組みの成果が十分現れなかった。 1: 特別支援への意識の切り替えが遅れた。	3	・昨年からの継続生徒に対し、よりきめ細かい対応ができるよう配慮し、特に定期考査に向けての体制づくりについて成果があった。 ・特別支援が必要な生徒への細かい対応に心掛け、成果があがった。		
教育相談課		* 特別な支援を必要とする生徒に対する、十分な指導計画を作成する。	4: 取り組みにより特別支援への理解が著しく向上した。 3: 真剣に取り組み多くの生徒・教職員の意識が向上した。 2: 取り組みの成果が十分現れなかった。 1: 特別支援への意識の切り替えが遅れた。	3	・昨年からの継続生徒に対し、よりきめ細かい対応ができるよう配慮し、特に定期考査に向けての体制づくりに成果があった。 ・校内の特別支援委員会で情報共有し、組織で支援できるように心掛けた。		
		* 生徒・教職員へ、特別な支援を必要とする生徒への理解と対応ができるよう啓発・研修を充実させる。	4: 取り組みにより特別支援への理解が著しく向上した。 3: 真剣に取り組み多くの生徒・教職員の意識が向上した。 2: 取り組みの成果が十分現れなかった。 1: 特別支援への意識の切り替えが遅れた。	3	教職員対象の研修を2度実施した。5月・8月に外部講師による講話を聴き意識を高めた。「直面する生徒」についての事例研究を充実させた。個別支援に対するスキルアップが今後の課題である。		
図書視聴覚課	○読書活動の充実	* LHRでの図書館教育を実施し、感想文・作文・読書ノートを提出させる。	4: 課題提出率は非常に良かった。 3: 課題提出率は例年並みであった。 2: 課題提出率は例年を下回った。 1: 課題提出率が顕著に低かった。	3	読書感想文、読書ノートは例年並の良好な提出状況である。	年間貸出数が2700冊とのこと、大変良いことだと思う。図書委員による出張貸出など生徒の積極的な活動が功を奏しているようだ。今後とも貸出数の増加に努められ、さらには読書の質を上げていく指導に取り組んでいただきたい。また、LHRや総合的な学習の時間を活用した読書指導の充実、新着図書についての積極的な情報提供に引き続き取り組んでいただきたい。	B
		* 新着図書案内、図書新聞、特定テーマの企画展示、出張貸出等を行う。	4: 利用者数が例年より多かった。 3: 利用者数は例年並みであった。 2: 利用者数がやや少なかった。 1: 利用者数の減少が顕著であった。	3	新着図書案内、図書新聞、特定テーマの企画展示、出張貸出等、年度の計画通りに実施した。		
	○図書室利用の促進とマナーの向上	* 図書室でのマナーおよび図書貸出規定の遵守を呼びかける。	4: 常に快適に利用できる状態だった。 3: 大きな問題点は感じられなかった。 2: 時にマナー向上指導の必要を感じた。 1: 利用マナーが悪かった。	4	図書室でのマナーは良好である。貸し出し図書の延滞が一部の生徒にあり、指導をした。		
	○機器の利用しやすさの向上	* 音声機器の利用のしやすさを維持し運用する。	4: 行事等では全く問題なく運用できた。 3: 行事等ではほぼ問題なく運用できた。 2: 運用システムに不安な点がある。 1: 運用に不備があることが多かった。	3	室内および体育館では使用方法の周知により利用者ごとの利用ができた。一方、グランド側のスピーカーにトラブルが生じ、運動会で一部影響が出た。今年度中に復旧予定である。		
厚生課	○校内美化の推進	* ゴミの分別指導の徹底	4: ゴミの分別が完全にできた。 3: ゴミ分別に対する意識が高まった。 2: 分別が不十分なところが少なかった。 1: ゴミ処理のマナーが低調であった。	4	昨年度から実施しているゴミ分別方法が定着し、教室内の清掃・ゴミの分別はよくできている。この方式を今後も定着させたい。	自然災害はいつ来るかわからないので常に危機意識を持つことは重要なことである。今年度は予告なしの訓練を実施されたとのこと。これから長く生きる生徒にとって大切な体験である。引き続きご指導いただきたい。 また、熱心な清掃活動は、快適な学習環境を生徒自らがつくっていくよい取組である。ゴミ分別を通じて、省エネや資源再利用等の環境教育を進めることもできる。継続して指導していただきたい。	B
		* 生徒の清掃態度・意識を高める。	4: 生徒は非常に意欲的に取り組んだ。 3: ほぼ期待通りに生徒が取り組んだ。 2: 生徒の取組状況に課題が残った。 1: 生徒の取組意欲が低かった。	3	通常の掃除に対して生徒はおおむねまじめに取り組んでいる。トイレのスリッパの使用も以前よりは改善してきている。		
		* 厚生委員会活動の活性化を図る。	4: 生徒の美化意識が非常に高まった。 3: ゴミ放置がほとんど見られなかった。 2: 美化指導の必要をより強く感じた。 1: 生徒の協力が得られなかった。	3	掃除分担の割り当ては厚生委員により作成し、ゴミの分別も厚生委員により適切に行っている。		
厚生課	○防火訓練の徹底	* 迅速な避難と防火・防災意識の涵養をはかる。	4: 適切な避難訓練が実施でき、生徒の意識が非常に高まった。 3: 適切な避難訓練が実施できた。 2: 生徒の取組に課題が残った。 1: 生徒の取組意識が低かった。	4	6月の避難訓練は生徒への朝礼等での説明をしないで実施した。予告なしの避難訓練であったが適切に行えた。10月の避難訓練では生徒による消火活動を行ったが、適切に実施できた。		
	○安全性・可用性の向上と維持	* webページ・緊急メール配信網の管理を適切に行い、校内外両方向への速達性を向上させる。	4: 校内外での共有は完全であった。 3: 現段階では特に問題はない。 2: 今後改善すべき点がある。 1: 運用に遅延や不足する部分が残っている。	2	webページのメインページが大幅リニューアルできた。教職員に対する運用マニュアルも完成し、テキストに従って多くの教職員が記事を書くことができるようになったが、組織的な運用方法や個人情報管理の点で課題があり、年度内に軌道に乗せることができなかった。次年度には、軌道に乗るよう努めたい。	徳山高校のwebページがようやく新しくなったことは大変良いことである。今後も内容の充実を注いでいただきたい。 Webページは中学生だけでなく、卒業生や一般の方にも見られるので、	

情報企画課		* インターネット上と校内の情報資源の適切な利用及びその手段の周知を図る。	4: 全員に十分な啓蒙ができた。 3: 多数の教員生徒に啓蒙ができた。 2: 取り組んだが徹底できなかった。 1: 計画のみに終わった。	3	他分掌とも連携して不正・不当な使用の防止に努めた。対策ソフトや校内ルールにより、安全に各リソースの活用を行った。	の力も見られるので、より魅力的なものにしていきたいと期待している。緊急連絡メールは生徒保護者から支持されているようだ。学校の安全安心を目指して今後も取り組んでいきたい。	B
		* 保有する情報機器の保守・分配を適切に行い全校での有効活用を期す。	4: 管理を適切に行い、利用も完全であった。 3: 適切な維持・管理ができた。 2: 十分な管理ができていないことがあった。 1: 管理が不適切で業務に支障を来した。	3	古い機器やソフトウェアの廃棄と更新を行いつつある。特に、WindowsXpの更新はH26年3月までに完了すべきものであり予算的措置が必須である。		
保健体育課	○たくましく生きるための体力の向上	* 運動を楽しんだり、競い合ったりする中で、仲間との連帯感を大切に、自己の体力と運動能力を向上させる。	4: 常に仲間と運動を楽しんでいた。 3: 仲間と運動を楽しむ生徒が多かった。 2: 運動を楽しむ生徒が半数程度だった。 1: 運動を楽しまない生徒が多かった。	3	各種の運動の実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わおうとする意識がみられた。また、体作り運動を全学年に継続的に履修させることにより体力の向上を図っている。	授業や学校行事などを通じて、健康な体づくりや体力・運動技能の向上だけでなく、人格形成を目指しておられることは高く評価したい。集団の中の自分を自覚し、協力していく心を持つことは社会生活の中でとても重要であり、集団行動の中でそれらを身につけられるよう指導を継続していただきたい。	A
	○望ましい人間関係づくりの形成	* 集団行動を通して、基本的な生活習慣を確立させる。	4: 集団中の個の意識は非常に高い。 3: 集団中の個の役割を知る者は多い。 2: 集団行動になじまない生徒がいた。 1: 集団中の個の自覚がない者が多い。	3	集合時間の厳守、整列・挨拶の徹底等、各教員が強い意識を持って取り組んでいるため、始業と同時に授業は進められるようになってきている。		
		* 健康相談活動により、自分の思いや願いを話すことが出来る生徒、人との関わりが出来る生徒を育てる。	4: 全員が人の気持ちを大切に行動した。 3: ほぼ人の気持ちを考え行動していた。 2: 人への配慮しない者が少なかった。 1: 相談が必要な生徒が多かった。	3	練習・ゲームの中で、相手を思いやる声が聞こえるようになった。総務を中心として、クラスでのまとまりもみられるが、クラスによっては、生徒の意識レベルに差がみられるため、引き続き指導に力をいれたい。		
理科	○科学的に考察し、処理する態度の育成	* 3校(岩国/徳山/山口)合同理科セミナー(1年)、大学訪問(2年)を実施する。SSH課題研究で【島田川の水質調査】を2年の秋に実施する。	4: セミナー等の目的を十分達成できた。 3: セミナー等の目的をほぼ達成できた。 2: 達成したが今後改善の余地がある。 1: 次年度への課題がいくつかある。	4	岩国高校、山口高校の協力を得て、効果的な合同セミナーを実施することができた。大学訪問では、山口大学理学部、農学部、工学部、九州工業大学に加えて、山口大学医学部の体験学習を実施することができ、医学系進学希望者に効果的であった。2年課題研究で、自分の設定した研究に加えて、秋に島田川の水質調査ができ、スキルを高めることができた。	SSHの3年間の取組を高く評価する。この研究開発を通じて、将来の有為な人材を育成することに大いに期待している。大学や地域の民間企業に協力していただくことも素晴らしいことだと思う。文系生徒にも、長い目で見て必要となる科学に対する興味・関心を高める取組を引き続き進めたい。	A
	○創造的な能力の育成	* SSHによる学校設定科目を効果的に実施する。	4: 教育効果の高い活動が十分できた。 3: SSHの活動がほぼ予定通りできた。 2: SSHの活動の一部がやや遅れた。 1: 予定していた活動ができなかった。	3	1年SSH基礎、情報科学、ライフサイエンス(保健)、2年SSH応用(数学)、ライフサイエンス(家庭)、SSH課題研究、3年SSH応用(英語)において、生徒が意欲的に活動できた。		
		* SSHを活用し、企業・大学との連携を進めていく。	4: 教育効果の高い活動が十分できた。 3: SSHの活動がほぼ予定通りできた。 2: SSHの活動の一部がやや遅れた。 1: 予定していた活動ができなかった。	4	SSH課題研究において回数運営指導委員の方々から指導を受けることができた。企業連携活動では、(株)トクヤマで体験学習を実施することができた。		
第1学年	○基本的生活習慣の定着	* 生徒課と連携を図り、生活指導の4本柱(遅刻の防止、挨拶の励行、掃除の徹底、服装頭髪の清整)を軸に規範意識を高めさせる	4: 規範意識が十分についてきた。 3: 規範意識が次第に高くなってきた。 2: 規範意識に大きな変化はなかった。 1: 規範意識に欠ける者が増えてきた。	3	基本的生活態度では、頭髪や服装で際立って乱れているというものは見られない。挨拶はよくしてくれている。掃除の実施状況は概ね良好と思われるが、一部不十分なものも見受けられる。体育祭、文化祭後、気持ちの切り替えが、やや遅れてしまったようにも思われるが、徐々に落ち着きを取り戻した。	高校生としての自覚をしっかりと身につけていただきたい。基本的生活習慣の定着が重要である。学習面において予習・授業・復習のサイクルを基本とする主体的な学習態度の育成等に力を入れておられる点は評価する。今後とも、生徒が学校生活に充実感をもつことができる環境づくりに努めていただきたい。	B
	○主体的な学習態度の確立	* 予習・授業・復習のサイクルを定着させ、主体的に学習に取り組む習慣をつけさせる	4: 主体的な学習態度が十分定着した。 3: 主体的な学習態度が概ね定着した。 2: 主体的な学習態度があまり定着しなかった。 1: 主体的な学習態度がほとんど定着しなかった。	3	7月の模試の分析会を受け、各教科で対策を検討し、授業を中心に、基礎学力の定着を徹底し、下位層の底上げを目標にして取り組んだ。その結果、11月の模試では、下位層の大幅な底上げが達成でき、また、上位層の伸びも見られた。しかし、各授業者の実感としては、学力は不十分であり、引き続き、授業への取り組み、予習や復習、提出物など、地道に根気よく取り組んでいきたい。		
	○生徒の問題への早期対応	* 生徒と積極的に関わり合いをもち、各教員との連携を図り、組織的に生徒・保護者への支援を行う	4: 適切な連携がとれ問題を十分解決できた。 3: 様々な連携のもと多くの問題を解決した。 2: 連携は図られたが問題も残った。 1: 連携が不十分で問題を多く残した。	3	全体的には学校生活を楽しんでいるようであり、体調不良などを訴え、保健室に行く、といった者は少ない。しかし、少数ではあるが対人関係など学校生活への不適応が見られる者もいる。また、学習に関する悩みも出てきており、心配されるが、学年同士、また、各分掌や保護者との早めの連携をとることを心がけて対処している。		
第2学年	学習に対する意識高揚	* 学校の授業を中心とした主体的な学習を通じて、学力の向上を図る。また、学問に対する興味・関心を深め、学ぶことに対する意義や意識をより高める。	4: 主体的な学習態度が十分定着し、学ぶ意識が非常に高まった。 3: 主体的な学習態度が概ね定着し、学ぶ意識が高まった。 2: 主体的な学習態度があまり定着せず、学ぶ意識があまり高まらなかった。 1: 主体的な学習態度が定着せず、学ぶ意識が身につかなかった。	3	生徒ひとりひとりの学習に対する意欲の差があり、予習・復習が不十分な生徒も見られたが、教科担当とHR担任で連携を取りながら指導を続けてきた。また、週末課題等の事後指導も粘り強く継続的に行い、定期考査や模試では、その成果が現れ始めた科目もある。今後、さらに主体的な学習の取り組みができる自立した学習者となるよう指導を続けたい。	今年度から、面接週間を12月に実施する取り組みをされたことを高く評価したい。自分の進路決定についてゆっくり相談できることは生徒にとって大変助かることであろうと思われる。生徒の支援について配慮がいきとどいていることに関心した。今後も学年全体での取組に期待する。卒業まであと1年、学習面や生活面、進路決定いづれにおいても生徒が力を十分に発揮できるよう指導していただきたい。	A
	基本的生活習慣の確立と特別活動を通じての人間形成	* 挨拶の励行、言葉遣い、時間厳守、遅刻・服装などの指導を通じて、規範意識を高め、自己管理能力の育成を図るとともに、諸行事や部活動を通じてより高い人間力を育成する。	4: 規範意識が十分に身につく、特別活動にも積極的に参加した。 3: 規範意識が次第に高くなってきており、特別活動への参加も見られた。 2: 規範意識に欠けるところもあり、特別活動への参加も消極的であった。 1: 規範意識に欠ける者が増え、特別活動への参加も非常に悪かった。	3	全体的には落ち着いた生活態度だが、学校に対する馴れ・甘えが行動に現れ、指導を要する生徒も多少いた。しかし、指導に対しては概ね素直に従っており改善が見られた。遅刻・欠席はあまりなく良好であった。今後も、根気強く指導しながら自己管理能力のある人物となれるよう支援していきたい。また、修学旅行では、時間を良く守り、きちんとした集団行動がとれ、貴重な体験ができた。その他の学校行事についても、みんなで協力し合う姿勢が見られた。		
	生徒の問題への早期対応	* 生徒と積極的に関わり合いをもち、各分掌・教員との連携を図りながら、組織的に生徒や保護者への支援を行う。	4: 適切な連携がとれ問題を十分解決できた。 3: 様々な連携のもと多くの問題を解決した。 2: 連携は図られたが問題も残った。 1: 連携が不十分で問題を多く残した。	4	学年会等で生徒の諸問題について情報交換を行い、早期に対処してきた。特別な支援が必要な生徒についても、関係職員を中心に全教職員で取り組んできた。今後増えてくるであろう進路・学習面の悩みを抱える生徒に対しても、教員間で密に連携を取りながら指導していきたい。		

第3学年	○進路の実現	* 面談等により、生徒一人ひとりに進路目標を持たせ、その実現に向けてきめ細かい指導(受験科目の選択等)を行う。	4: 全員が目的を持って進路を選択した。 3: ほぼ全員が希望進路を見つけた。 2: 進路選択に迷う生徒がみられた。 1: 進路選択を決定しない者が多かった。	3	進路講演会や個別面談によって、生徒一人一人の目標進路を現実化させたことや、目標進路にともなう受験科目選択のアドバイス等を通して、ほぼ全員の希望進路は具体化している。また、7月、12月、1月に行った3回の三者懇談会により、保護者とともにもその都度きめ細かく指導を重ねることができた。	生徒を最後まで指導していただいた事に感謝したい。進学実績はもう少し先でなければ判明しないが、堅実な進路選択をしているとのことで、大変期待している。 また、生徒の進路希望実現のため、課外授業や個別指導に力を入れ、受験に対応できる学力の養成に努めていただいたことにも感謝したい。 学校行事への取組等を通じて、生徒の内的・人間的な成長を支援いただいていることも心強く思っている。	A
	○学力の充実・向上	* 授業を中心とし、定期的な小テスト及び課外授業等を通して、基礎的な学力の充実を図り、生徒一人ひとりの進路に対応した学力を身につけさせる。	4: 生徒全員の学力が非常に伸びた。 3: 過半数の生徒の学力が向上した。 2: 学力は伸びたが十分ではなかった。 1: 学力はあまり伸びなかった。	4	小テスト、早朝課外授業、及び放課後課外授業等の成果により、個人差はあるが、センター試験に対する学力と国公立2次試験に対する学力は、概ね習得している。早朝、昼休み、及び放課後の自習室において、自学自習に励む生徒が受験が近づくに従って増え、生徒のやる気が増大している様子を感じられた。目標進路に向けて、さらなる学力向上が期待できると考えている。		
	○学校行事の成功	* 二大行事(運動会・徳高祭)に向けて、中核となるリーダーを養成し、クラス・学年のまとまりを図るとともに、社会に貢献できる人材を育成する。	4: 団結力、指導力が十分発揮できた。 3: 非常に熱心に取り組むことができた。 2: やや熱心に取り組むことができた。 1: 取り組みに熱意が感じられなかった。	4	行事の当日及び準備において、多くの3学年の生徒は1・2年の生徒の指導を行っており、リーダーとして大変苦労している。また、各クラス、学年で団結し、最後まで粘り強くやり遂げ、行事を大成功に導いている。この経験は、後に社会に出て発揮されると確信しており、進路先での生徒の活躍を望みたい。		

業 務 改 善	学校の組織等	* 教職員の状況を把握し、校務分掌業務のさらなる効率化を目指す。各分掌における課題を分析するため、各課長の意見を集約し、その結果を受けて個々の教職員が当事者意識を持ち、分掌業務を遂行できるよう指導助言に努める。	4: 分掌の効率化が実現できた。 3: ほぼ分掌の効率化が実現できた。 2: 分掌の効率化に一部課題が残った。 1: 分掌の効率化にかなり課題が残った。	4	業務改善アンケートに基づき、委員会組織で改善への話し合いを進めている。その結果、順次改善が進んでいる。また、分掌負担の平滑化を目指した人員配置は昨年度より改善され、各分掌業務は円滑に行われている。SSH指定3年目の活動を申請時の計画通り実施した。生徒も新しい学校設定科目や課題研究に熱心に取り組んでいる。次年度も精力的に行われると予想される。SSH関連の校務にも慣れ、教職員の負担感は解消されている。今後も校務のスリム化を進め、教職員の意欲が高まるよう業務の平滑化に努めたい。	学校行事のあり方について真摯に取り組んでおられる点は評価したい。本校の伝統的な二大行事と学力向上の両立については課題があるが、教職員の協力により、特色ある学校づくりを推進していただきたい。 先生方の代休が取りやすいシステムができたことで高い評価をつけておられることは良い点だと思う。今後も業務改善に取り組んでいただきたい。 先生方の心身の健康についてご留意いただくとともに、明るい雰囲気の中で働きやすい職場環境づくりを進めていただきたい。このことは健やかな生徒を育てるために最も重要なことだと考えている。	A
	○校務分掌の見直しと再編						
	○学校行事の工夫と精選	* 学校行事の課題点について、実施後の評価結果を基に各関係会議により、再検討を行う。課題改善に向けて工夫点を洗い出し、来年度における学校行事の適正な実施を目指す。	4: 行事の課題が解決できた。 3: 行事の課題がほぼ解決した。 2: 改善できない課題が少し残った。 1: 課題の改善ができなかった。	4	学校行事の適正な運用について、行事検討委員会で5回に渡り検討を重ねた。今後さらに、よりよい運営となるよう改善を進め、適正化への具体的な取り組みを行うことを教職員に確認した。 本校の2大行事は生徒会および各行事の実行委員が企画立案する。特に3年生が部活動を引退した後、早期に受験体制に切り替えることができるよう配慮したい。また、夏休みに、効率の良い学習ができる環境をつくることで生徒にも教職員にも無理のない企画・計画を進めていきたい。		
	○日常的な業務	* 議題を会議開始前の可能な限り早い時間に周知し、議題に対する意識が高まるよう努める。協議事項と報告事項を区別して議題の精選を図り、すべての会議を勤務時間内(45分以下)に終了できるようにする。	4: 効率的な会議運営ができた。 3: 効率的な会議運営がほぼ達成できた。 2: 会議運営が効率的でない部分があった。 1: 会議が効率的とはいえなかった。	3	会議の効率的な進行のため、会議資料は総務課がまとめて冊子を作成することを継続的にやっている。 会議進行の効率化の方法として、昨年度から関係者委員会を組織し、「学力向上」「行事検討」「業務改善」について少人数で協議・提案を行っている。このことにより、一部の教職員が持つ意見を他の教職員が理解し、全教職員が受け入れやすくなった。 その他、集合時間の厳守、資料の事前配布、資料のスリム化等を呼びかけることにより、スムーズな進行が実現できた。 また、教職員専用サーバーのカテゴリー別フォルダを作成したことにより、教職員の活用状況が向上している。		
○効率的な会議運営							
○勤務状況	* 職員の年暇、代休の取得は、授業変更により適正な取得を可能にする。教職員の健康管理等に特に配慮し、過労にならないよう業務分担を工夫・改善する。協働意識のある職場環境作りに努める。また、教職員との日常会話に努め、メンタルケアに努める。	4: 健康管理と適正な休暇取得ができた。 3: 健康管理と適正な休暇取得がほぼできた。 2: 多忙のため休暇取得ができなかった。 1: 健康への配慮が十分できなかった。	4	教職員相互の理解により、時間変更がスムーズに行われており、授業等に影響なく年休や代休がとれるシステムができています。週休日における試合引率や出張に対して可能な限り代休が取得できるよう職場環境を整えている。 また、時間外勤務の多い教職員に対して、健康に留意するようこまめに声をかけています。 教職員のメンタルケアについては、スクールカウンセラーと協力して推進するとともに、日頃から会話の機会を増やして、今後とも「働きやすい」「明るい」職場環境を維持していきたい。			
○健康への配慮と休暇の確保							

5 学校評価総括(取組の成果と課題)	
①	SSH指定3年次の活動は計画通り実施することができた。 1学年の活動報告会は2時間に拡大して行った。2学年の課題研究発表会は周南市民館で実施。3学年のSSH応用も予定通り実施した。高大連携では九州工大や山口大学医学部の体験を新たに加えた。 企業連携では(株)トクヤマの協力により企業内で研究体験を行った。 海外研修はマレーシア方面に33名が参加し、より充実した内容で実施することができた。
②	運動会は昨年度から台風による延期を考慮し、土曜日開催としている。本年度も無事終了し、多数の観客が来校し賑やかな中、支障なく実施できた。
③	週33単位時間の確保を目指して隔限60分授業から55分6限授業に変更して2年目が無事終了した。校内において新指導要領へ移行する教育課程も了承され、次年度への準備は滞りなく進んでいる。
④	「わかる授業の一層の推進」を目指して各教科において研究授業を行うこととし、年度後半から教科持ち回りで4回研究授業を行った。次年度は年間6回行う予定である。生徒に対する「授業アンケート」は7月と12月の年間2回行い、結果を生徒保護者に公開した。本校の授業に対して9割以上の生徒が満足との回答であった。
⑤	生徒指導においては、昨年度から体育館で全校一斉の頭髪服装指導を行っている。このことにより、頭髪や制服の着こなしが良くなった。本校生徒指導の4本柱である「遅刻防止」「掃除徹底」「挨拶励行」「服装清潔」についても継続的に取り組んでおり、全校職員で校門指導やあいさつ運動に積極的に取り組んでいる。
⑥	情報機器の取り扱いおよび情報の持つ利点と危険性について、生徒の理解を促進する指導を行った。特に携帯電話の使用マナーや情報発信のマナーについて注意を喚起した。
⑦	徳山高校のホームページのリニューアルを行った。今後、ページ内容の充実と積極的な更新が可能となるような校内体制を作っていく。

- ⑧ 進路指導として、従来からの模試課外の計画的実施、進路だよりや進路講演会の開催、魁講座の実施に加えて、進路課・学年の連携による進路検討会の実施を継続している。管理職も参加して、学年担任が生徒の学習状況を詳しく把握し、進路指導および教科指導に生かしている。
- ⑨ 部活動においては、顧問の熱心な指導もあって、本年度も生徒の意欲的な活動が見られた。全国、中国大会等に出場した部もあり、文武両道の伝統が継承されている。
- ⑩ 保護者・生徒による学校評価アンケートの結果では、学校行事や部活動が充実しているといった点で評価が高く、シラバスの活用、環境美化、学校の規則を守る項目の評価が低い。評価が低い項目も過去2年間の評価と比較すると徐々に高くなってきており、改善の成果が出始めているものと思われる。評価の低い項目についてはさらに改善の検討が必要である。
- ⑪ 昨年度から、緊急メール配信を開始し、定着している。登録数は生徒数を上回って千件を超えており、生徒と保護者の両者が登録していると思われる。生徒への情報伝達が早く伝わるため、登校時の混乱を避けるのに役立っている。今後、地震や津波などの非常事態に対する連絡方法について、さらに役立つよう検討を進めていきたい。

6 次年度への改善策

- ① 周南地域の中核校として、保護者や地域から信頼される学校づくりを推進する。特に学校行事やSSH等へ積極的に取り組むとともに、質の高い授業を行うことにより、生徒が希望する進路に進めるよう最大限努力する。
- ② SSH4年次の取組を全校体制で行う。この活動が生徒の育成に役立つ内容となるよう検討し続けるとともに、国際性の育成や問題解決力の伸長、望ましい自然観や職業観の形成などを目指した研究開発活動を継続・推進していく。
- ③ 学校生活アンケートや生徒による授業評価を活用し授業改善を行う。また、模試分析会、個別面談や課外授業等の教育活動を積極的に行い、生徒の学力向上に努める。
- ④ 学校の教育活動に関する情報は従来から学校新聞やクリック徳高等を通じて、家庭・地域に向けて発信している。今後さらに情報発信能力を高める必要がある。今年度の学校ホームページ(メインページ)のリニューアルを機に、全校体制で内容の充実と早期の更新に努める。
- ⑤ 服装の清整、掃除の徹底、携帯電話の使用等を日常の学校生活の中できちんと指導し、基本的な生活習慣の定着を図ると同時に、校則やきまりを守る意識を高めていく。
- ⑥ 情報の危険性を強く認識させ、継続して指導を行う。生徒の人権意識を高め、好ましい情報機器の扱いについて外部講師を招いて生徒の意識を高めていく。
- ⑦ 学校行事や課外授業のあり方、特別支な援が必要な生徒への援助や教職員の業務改善など、本校が抱える課題について、全教職員で情報を共有し、協力しながら継続的に改善を進めていく。